



## 7・8月の開館予定

### 7月開館予定カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
					1 8:00-18:30	2 8:00-18:30
3 休館	4 8:00-18:30	5 期末考査 8:00-18:30	6 期末考査 8:00-18:30	7 期末考査 8:00-18:30	8 期末考査 8:00-18:30	9 8:00-17:00
10 休館	11 8:00-17:00	12 8:00-17:00	13 答案返却 8:00-17:00	14 8:00-17:00	15 休館	16 終業式 8:00-17:00
17 休館	18 海の日 休館	19 サマー セミナー 8:00-17:00	20 サマー セミナー 8:00-17:00	21 サマー セミナー 8:00-17:00	22 サマー セミナー 8:00-17:00	23 休館
24 休館	25 サマー セミナー 8:00-17:00	26 サマー セミナー 8:00-17:00	27 サマー セミナー 8:00-17:00	28 サマー セミナー 8:00-17:00	29 8:00-17:00	30 休館
31 休館						

期末考査終了後も図書館は開館しています。  
 宿題や勉強のため、図書館を活用しましょう！



### 8月開館予定カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	1 8:00-17:00	2 8:00-17:00	3 8:00-17:00	4 8:00-17:00	5 8:00-17:00	6 休館
7 休館	8 8:00-17:00	9 8:00-17:00	10 学校閉鎖 休館	11 学校閉鎖 休館	12 学校閉鎖 休館	13 学校閉鎖 休館
14 学校閉鎖 休館	15 学校閉鎖 休館	16 学校閉鎖 休館	17 8:00-17:00	18 8:00-17:00	19 8:00-17:00	20 休館
21 休館	22 8:00-17:00	23 8:00-17:00	24 8:00-17:00	25 8:00-17:00	26 8:00-17:00	27 休館
28 休館	29 8:00-17:00	30 休館	31 休館			



### 雑誌即売会売上報告

先月告知した雑誌即売会に、多くの生徒が参加してくれました。その結果、売り上げは、¥27600.-に達しました。  
 今回の売り上げは昨年度の売り上げと、ウクライナやアジアで難民の救済活動をしている国際ボランティア会『シャンティ』に寄付する予定です。

## ◎教職員のリレーエッセイ◎ 第99回

司書 山中 裕紀子 さん

こんにちは、図書館のぶた館長だ。ボクはブタだから文字は書かない。司書の山中に代筆してもらおうよ。

このリレーエッセイも99回目、次をもって100回を迎えるのだ。

2013年3月号で第0回と称して前任の司書中山からスタートし(山中じゃないよ、別の人)、次の4月号で山中に代わって着任した中島が第1回をスタートさせたのがはじまりだ。

ボクはリレーエッセイがスタートすると同時にこの図書館にやってきたのだ。着任してから10年目だな。今となってはまるで学校の公式キャラクターのように使ってもらっているけど、本職は図書館の館長なのでよろしく。

司書の山中は観劇という趣味があって、先日横浜のある劇場のコピー(広告文)で「劇場は古き良き思考と、新たな視界の宝庫」という一文を見かけたらしい。読書の醍醐味もこれかもしれないな。

古い小説、随筆や論説から学ぶこともあれば、新しい視点を得るためにその分野の最先端の研究者や専門家が書いた本から学ぶこともある。新進気鋭の作家が書いた文学作品からみえる景色もある。山中は新しいものを読むことを好むようだけど、その中にまた古き良きものが流れていることも多いらしい。複雑だな。

図書館だよりのリレーエッセイは2013年スタートでまだ10年経っていないので、「古き良き」とまではいかないのかもしれないけど、図書館から眺める景色はたった10年足らずでもずいぶん変わったなあ。

生徒がタブレットなどの自分の端末を学校で使うようになった。これが一番大きな変化だな。コソコソ携帯をいじる生徒を必死で注意していた立場からすれば、授業や自習時間に堂々と使う今の状況がこんなに早くやってくるとは思わなかったよ。

図書館だから今は本がずらーっと並んでいるけど、電子書籍が当たり前の世の中になったら、ここはどういう景色になるのかなあ。でも、本は「古き良き思考と、新たな視界の宝庫」、これだけはどんなに本のスタイルが変化しても変わらない気がする。深いな、この言葉。

### 余談よだん

図書館は、人類が延々と積み重ねてきた知の結晶です。その結晶をすこしでも多くの人々に分け与えるため、人類は涙ぐましい努力を重ねています。

「世界の不思議な図書館」(アレックス・ジョンソン著；北川玲訳、創元社)には、大規模図書館から、街中に設置された電話ボックス型図書館、ラクダに書籍を乗せた移動図書館など、「人はこうまでして本を読みたがるのか…」と思わせる図書館がたくさん紹介されています。

その最たるものを「戦地の図書館: 海を越えた一億四千万冊」(モリー・グプティル・マニング著；松尾恭子訳、東京創元社)の表紙に見ることができます。この本の表紙は、塹壕で本を読む兵士の写真です。

人は、生命の危機に際しても、本を欲する生きものなのです。